

動物取扱責任者研修 2021

『動物由来感染症について』

本日の目的

- 以下の3つの病気について、感染経路を理解し、取扱業者の皆様が感染しないために何が必要か理解していただくこと。

本日のお題

- ①ウイルスの病気：SFTSウイルス感染症
- ②細菌の病気：犬レプトスピラ感染症
- ③真菌の病気：皮膚糸状菌症

①ウイルスの病気

- SFTSウイルス感染症

SFTSウイルス感染症

- 原因
- ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属するウイルスの一種。
- 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の病原体として最近同定されたウイルスです。

SFTSウイルス感染症

- 症状（人間の場合）
- 感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こす。致死率は～30%と報告されている。感染経路はマダニを介したものが中心。治療は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはない。

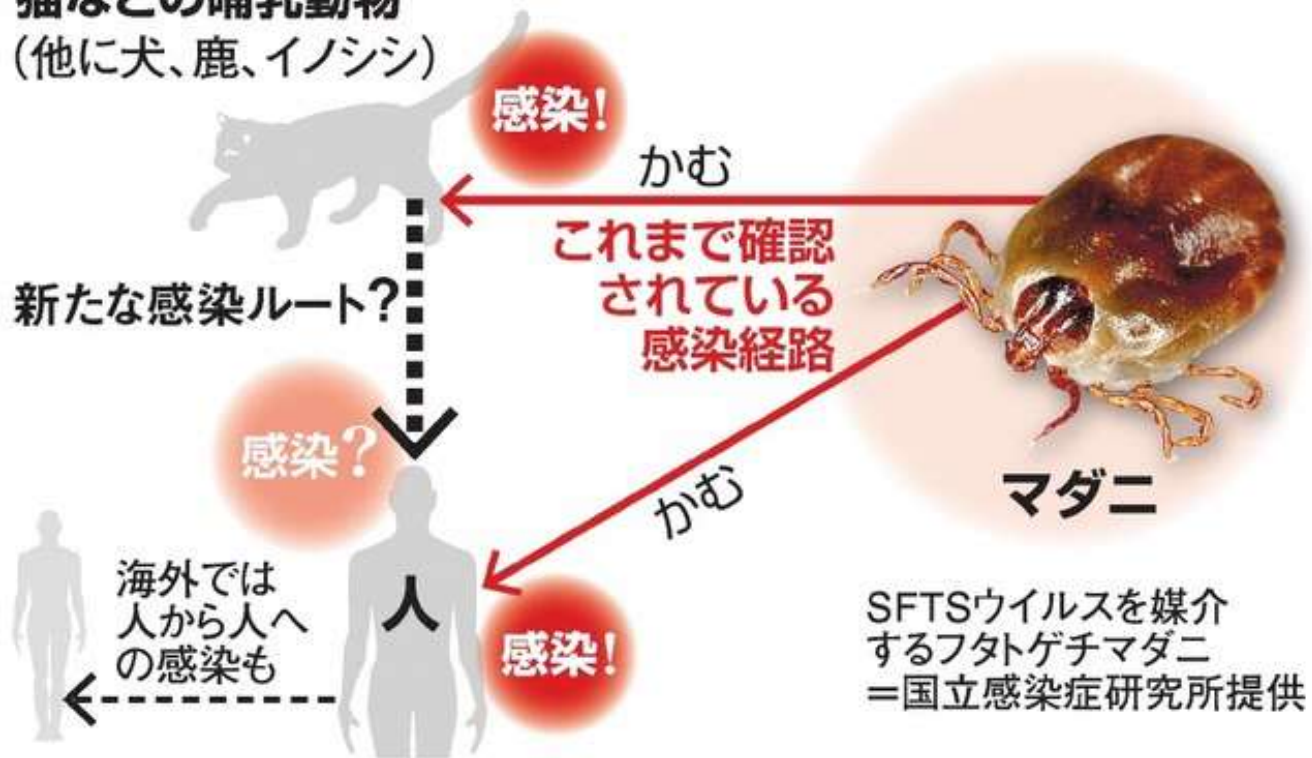
SFTSウイルス感染症

- 獣医師と動物看護師がネコからSFTSに感染！
 - 掲載日：2018.11.05
- 致死性のSFTS(重症熱性血小板減少症)ウイルスがイヌとネコからヒトに感染した事例については、一般向け情報（イヌとネコは致死性SFTSウイルスを媒介する；2018年5月28日）でお知らせしたところです。今般、宮崎県において小動物臨床を行う動物病院に勤務する獣医師がネコから感染した事例が明らかにされました。

マダニからうつるSFTS

厚生労働省や国立感染症研究所への取材から

猫などの哺乳動物
(他に犬、鹿、イノシシ)



予防は?

- ペットと過剰に触れ合わない
- 体調不良のペットは動物病院に連れていく

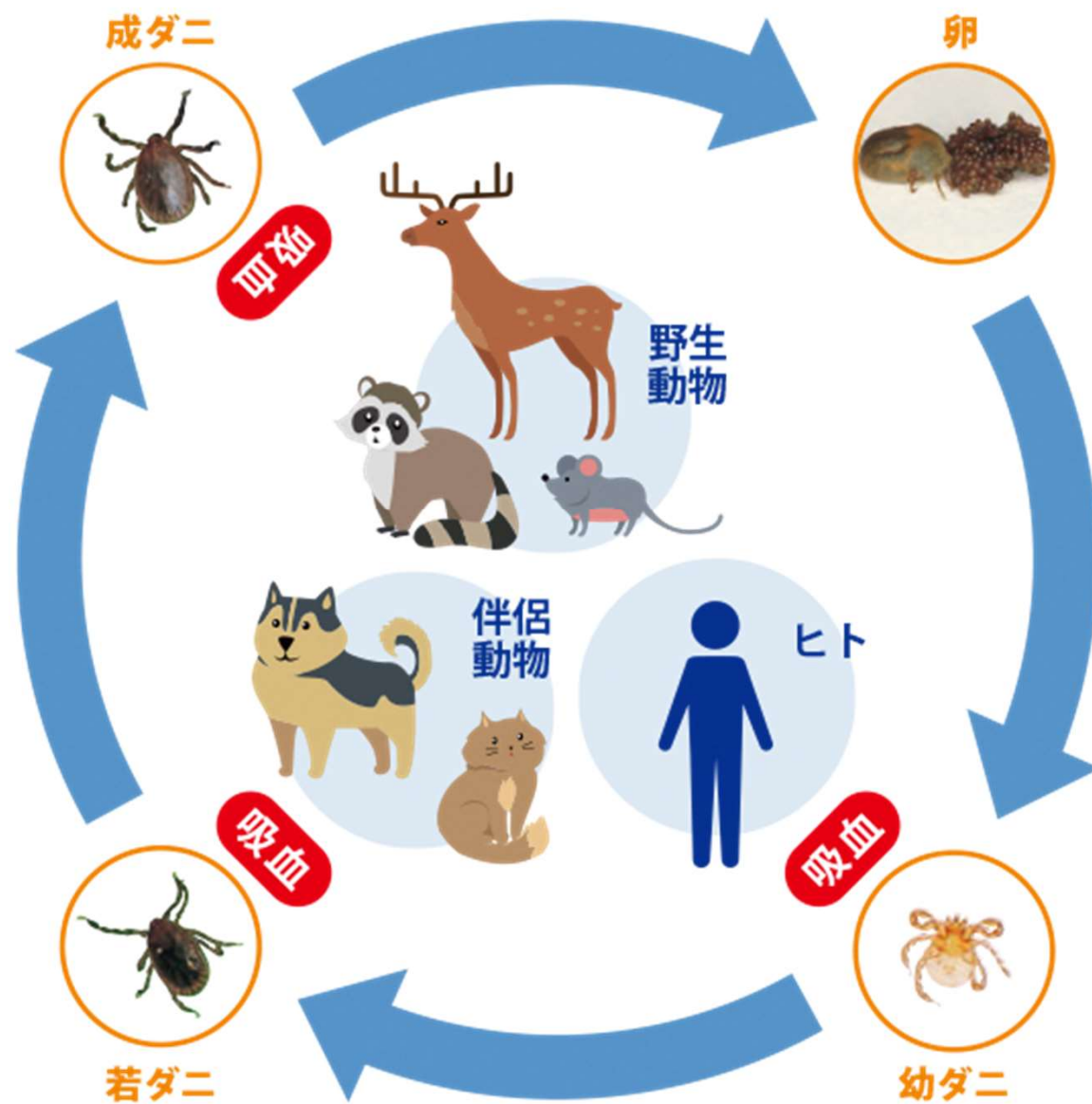
特徴

症状 | 発熱、食欲低下、吐き気、下痢など

潜伏期間 | 6~14日程度、猫にかまれた女性は約2日

治療法 | 特効薬なし、対症療法のみ

SFTSウイルスの生活環





SFTSのリスク

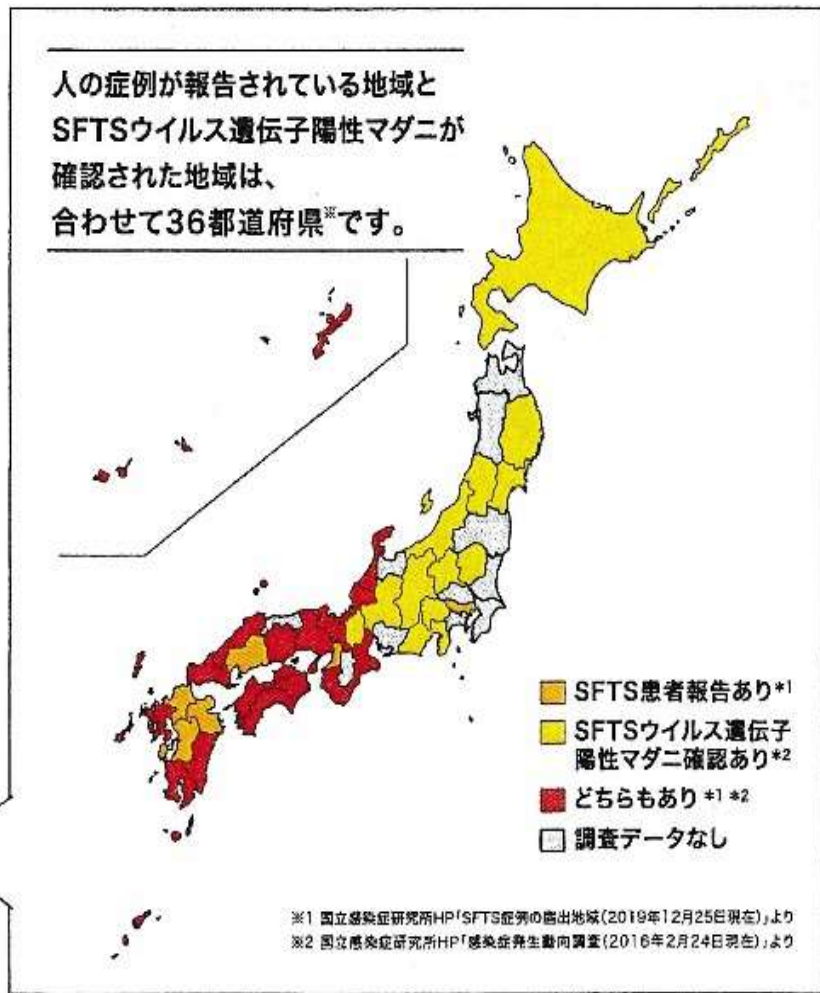
全国へ広がるSFTSの被害

SFTSのリスクは西日本が中心ですが、人や動物の移動によって全国に広がっています。

SFTSの原因となるマダニの種類によっては、年間通して活動しているものもあり、注意が必要です。

人への被害は2019年12月までに全国で497症例が報告され、うち70人が死亡しています※。

※国立感染症研究所HPより(2019年12月25日現在)



SFTSに感染しないために

- ダニを媒介する病気のため、ダニに咬まれない対策（草むらに入る場合は長袖・長ズボン着用等）。
- ペットである犬・猫の通年ダニ予防。
- 野良猫から人への感染が報告されているため、保護する場合は注意が必要。

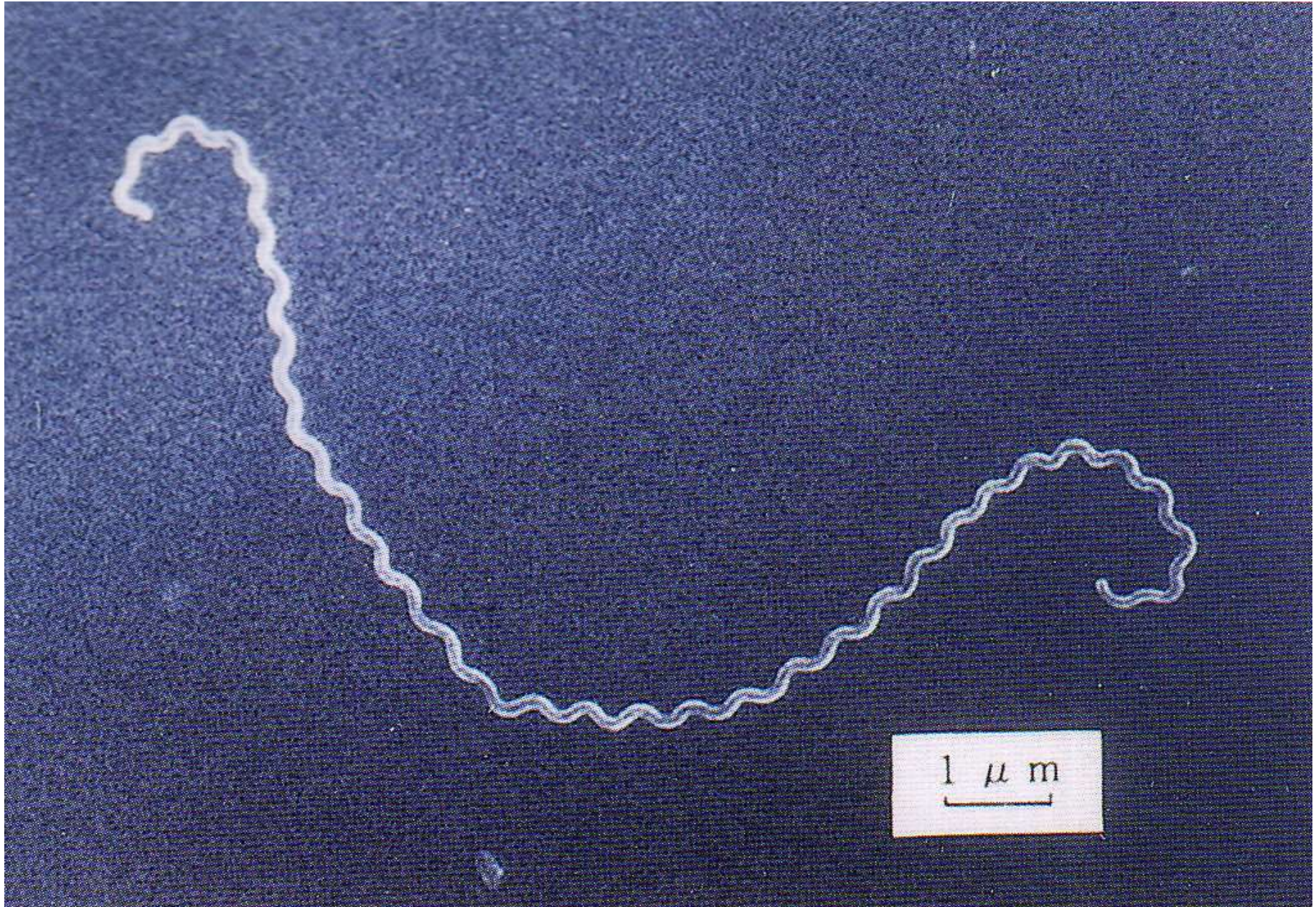
②細菌の病気

- 犬レプトスピラ感染症

犬レプトスピラ感染症

•原因

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラにより引き起こされる人獣共通感染症です。レプトスピラはスピロヘータ目レプトスピラ科レプトスピラ属の細菌で、病原性と非病原性の2種類に分類されます。一般に長さ6~20 μm (※)、 $\phi 0.1\mu\text{m}$ の細長いらせん状の細菌で暗視野顕微鏡で観察することができます。



1 μm

犬レプトスピラ感染症

- 症状

感染犬の初期症状は、発熱、嘔吐、黄疸などであり、レプトスピラの種類によって、引き起こされる病態が異なると考えられています。すなわち、突然、死亡することもあるれば、臨床症状を長期間示さずに、レプトスピラを腎臓に保菌しながら、尿中に排菌し、生活を続けることもあります。



犬レプトスピラ感染症

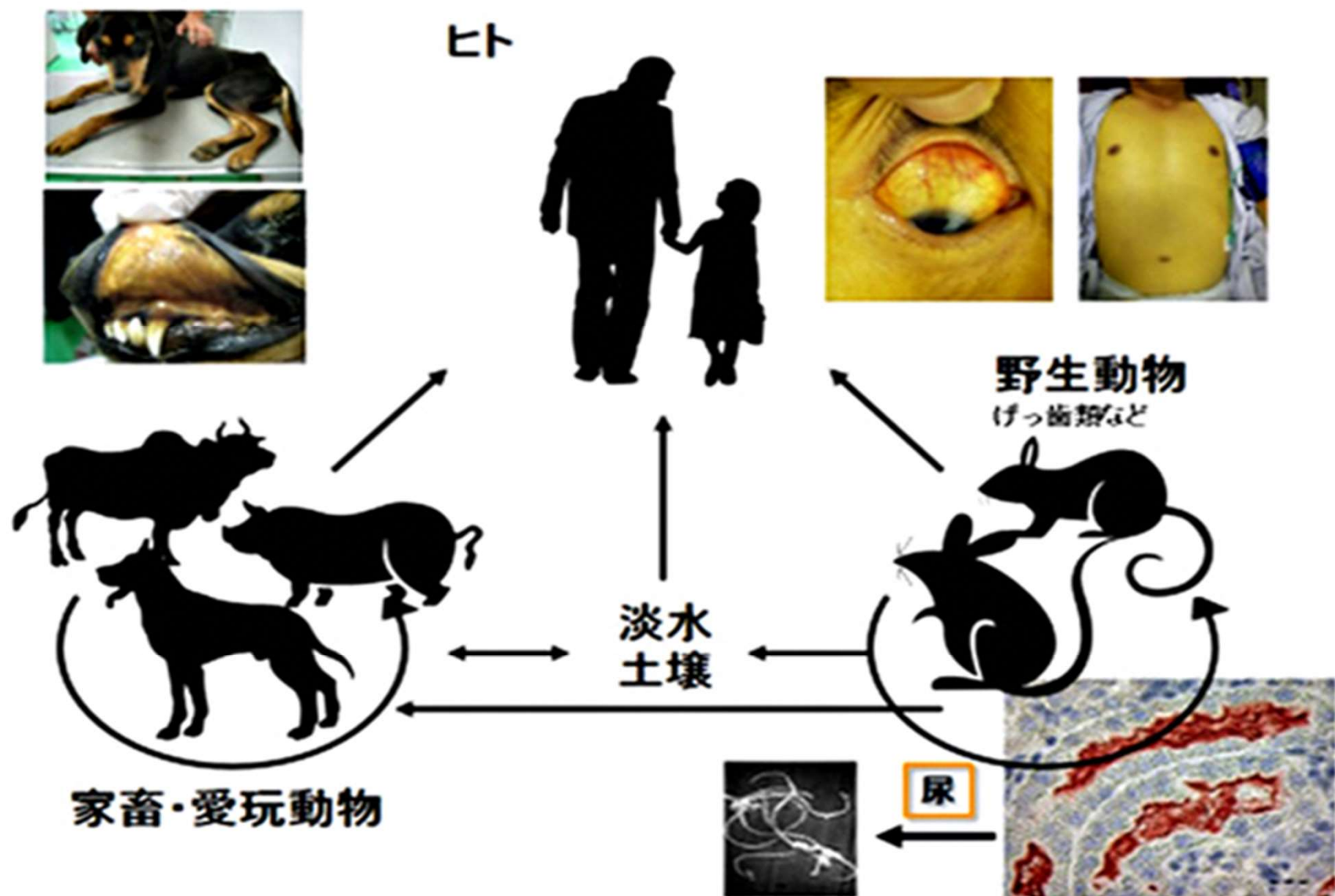
- 感染経路①

病原性レプトスピラは哺乳動物の腎臓に定着し、尿と共に排菌されます。犬はレプトスピラを含む尿に直接接触することや、尿を含む土壌や水と接触することで経皮的、経粘膜的に感染します。公園やドッグランなども注意が必要です。

犬レプトスピラ感染症

- 感染経路②

レプトスピラの保菌動物として重要な役割を果たしているのがネズミ等のげっ歯類とされ、都市部ではドブネズミの生息率が高い衛生環境の良くないところは注意が必要です。また、最近では、台風の通過とそれに伴う洪水の後にヒトでのレプトスピラ症患者が発生しています。



(感染研小泉信夫先生 提供)

レプトスピラに感染しないために

- 山や沼地の泥水には、レプトスピラ菌が含まれる可能性を常に考えておく。
- 感染地域では犬にレプトスピラ入りのワクチン（7種、8種、10種）を接種しておく。

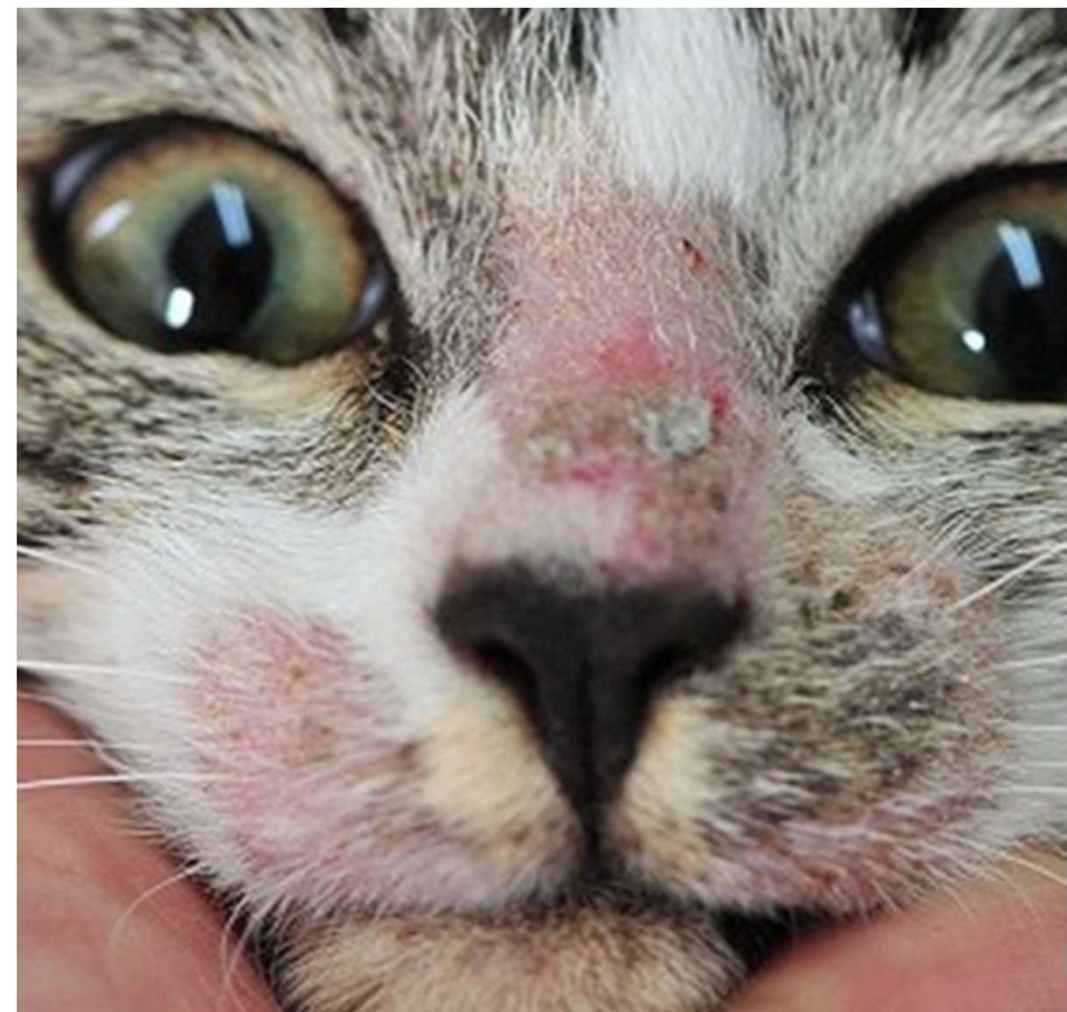
③真菌の病気

- 皮膚糸状菌症

皮膚糸状菌症

- *Microsporum*属（小孢子菌）、*Trichophyton*属（白癬菌）などが原因で起こる皮膚病です。一般的に身体は皮膚のバリアーで守られています。しかし、免疫力の弱っている動物や、湿気のために皮膚が弱っていると皮膚糸状菌が侵入しやすくなります。皮膚糸状菌が侵入しますと、その脱毛の様相は“リングワーム”と呼ばれ、脱毛は円形に広がっていきます。

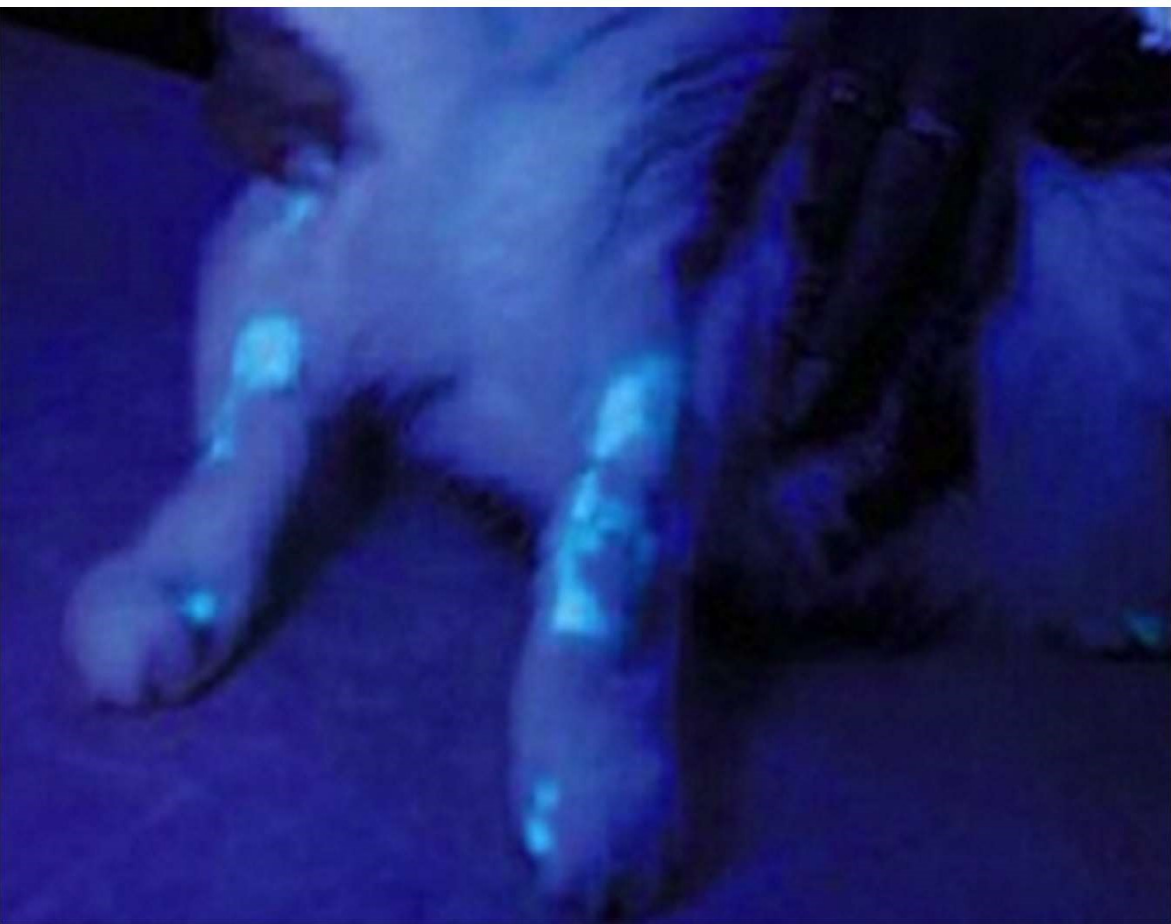
皮膚糸状菌症



皮膚糸状菌症

- 皮膚糸状菌が感染した皮膚で毛のある場所だと、脱毛部と有毛部の生え際が分かれています（限界明瞭）。その円の外周の毛をつまむと、簡単に抜けるのも特徴的です。菌の種類によっては、**検査用のライトで蛍光色に光る**こともあります。

皮膚糸狀菌症



皮膚糸状菌症

- 動物を抱っこする機会の多い子供や女性の皮膚に感染することが多く、**腕**や**首回り**などは直接接触する場所で、皮膚病変が良く見られます。

皮膚糸状菌に感染しないために

- 皮膚病の犬猫を取り扱う際には、その皮膚病が真菌症なのかどうか注意しておく。
- 動物を触った後は、よく手洗いをする。